

2018.8
August

今月のことば

「真弓定夫先生から教わったこと」その核心とは？

医療法人社団藍青会理事長

梅津 貴陽

伝説の小児科医、真弓定夫先生。その真弓先生のドキュ

メンタリー映画「蘇れ^{よみがえ}生命の力 小児科医 真弓定夫」(ハートオブミラクル配給)が、平成29年12月3日に全国で、いや全世界で同時上映された。厚顔にも、私はこのドキュメンタリー映画に出演させていただいた。真弓先生がその人生において、世に伝えてきたことを、更に広めていくことのお手伝いをさせていただいたのだ。

現代社会は様々な問題を抱えている。人々の生活は悪化の一途であり、日々の生活は芳しくない。育児や、子どもたちの環境も悪い。年金問題。本格的な超高齢化社会。これらの問題は複雑に絡み合い、その解決の糸口を見つけることは容易ではない。最新の医療と称して、その治療法、薬剤も留まるところを知らない。いわゆる医療費の増大。更には大人も子どもも、ストレスから逃れることが出来ない社会。本当に、戦後この国は良くなったと言えるのだから

うか？

これらの問題に対して、真弓先生は医師として60年来真摯^{しん}に向き合い、改善のための提言をご講演や書籍、そして

診療で続けて来られた。私はその真弓先生から直接お話を伺い、真弓先生のお考えの深さを知ることにつ



昨年11月に東京で開かれた映画の上映会で舞台あいさつに立った真弓さん(手前)と梅津さん(右)、真弓さんの次女の紗織さん

余りにも核心を突いた結論に、驚きを禁じえなかった。

真弓先生が私たちに伝えたかった最大のメッセージ。それは、「人間の本当の生き方とは何か？」という問いに対する答えなのだ。

そしてその答えとは、「人生は楽しむためにある」というものなのだ。

短い人生を、思い悩むのではなく、楽しみ味わい尽くす。そのためには、負の感情を持つのではなく、全てを受け入れ、一体どうしたら楽しめるかに注力すること。病気や置かれた環境を嘆いても、改善されることは決して無い。であるならば、その様な思考は直ちにやめるべきなのである。

数年前に脳卒中をされ、身体の自由が徐々に利かなくなり、あちこちに痛みを感じながらも、御歳87歳の真弓先生は言う。「今辛いと思うことはない」、そして「自分の人生

は楽しかった」と。

小児科医、真弓定夫。先生は一医師などでは断じてない。大いなる先人として、私たちに自らの生き様を見せつけ、道標となって下さっているのだ。まさに灯台なのである。

一人ひとりの人生を生き活きとしたものにするために、真弓先生のお考えの火を絶やす事は、絶対に出来ない。いや、

全ての後人はこの考えを胸に、生きる使命があると思おう。



梅津 貴陽

うめづ たかはる

昭和45年生まれ。昭和大学歯学部卒業。歯科医師。医療法人社団藍青会理事長。食育を学ぶ過程で、医師真弓定夫に師事。「人生を健やかに幸せに生きる」をテーマに、各種セミナーを開催している。自院のスローガンは、「2度と歯科医院に行かないための歯科医院」。著書に『太った理由は、口の中を見れば分かる』（主婦の友インフォス社刊）、『中学受験親の鉄則』（風鳴舎刊）、『真弓定夫先生から教わったこと』（自主出版）がある。詳しくはumezutakaharu.comにて。



15頁で梅津氏の著書『真弓定夫先生から教わったこと』を紹介しています。(編集部)